キラリ★八代人

お母さんたちの頼れる近所の応援団

ファミリーサポートセンター提供会員
白石 和子 さん（八幡町）

「子どもたちは私にとって天使。笑顔いっぱいの子どもからパワーをもらうんです」。

そう語る白石和子さんは、一時的に育児や子どもの見守りができずに困っている人の援助を行う「ファミリー・サポート・センター」の提供会員の１人。八代ショッピングセンター（１階がマックスバリュ）２階に事務所がある同センターの開設当時から約７年にわたり提供会員として活動を続けている。また、同時に開設されたつどいの広場「こどもプラザすくすく」でもアドバイザーとして、今年３月まで活躍。話を聞いたり、子どもとの遊び方を教えたりして、多くの初心者ママを笑顔にしてきた。「話していると心が自然と和む人。子育てに関する知識も深く、お母さんたちにとって頼もしい相談役」とスタッフの信頼も厚い。

気づけばいつも、おいやめい、友だちの弟妹の面倒をみていたという和子さんは、迷わず保育士の道を選んだ。出産を機にいったん仕事を辞めたが、幼稚園の用務員として再び子どもに携わる仕事に就き、５５歳で退職。ファミリー・サポート・センター設置に向けて行われた、提供会員希望者への講習会を受け、昼間はつどいの広場でアドバイザーとして、夕方からはファミリー・サポート・センターの提供会員として忙しい日々を送っていた。

▲登校サポートをする白石さん（左）

そんな中、一度肺炎を患い、活動を休止したことがあった。和子さんは、定期的に通っていた利用会員の支援をすることができず、利用会員の不安感を助長してしまったことを猛省したそうだ。自己管理を徹底し、その時間は子どもたちをしっかりと守らなければならないという責任の重さを痛感した。

その利用会員とのつながりは、今も続いている。子どもは双子の男の子で、１人は障がいがある。出会った頃は１歳半だったが、今は小学２年生になった。和子さんは週に１回、保護者に代わり障がいがある子どもの登校サポートを続けている。

「頼る人が近くにいなくて心細い思いをしながらも、一生懸命子育てをしているお母さんたちを応援したい」という和子さん。「無理はしないで、大変なときは誰かに助けを求めていい。子どもと向き合う時間が取れずに悩むときは、ぎゅうっと抱きしめてあげればいいの。それだけで『大好き』という気持ちは子どもに伝わるから」とエールを送る。

目　次
Table of Contents

2014.MAY　No.113

子育て応援特集
3 八代版 子育てを楽しもう
8 八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡 国の史跡に指定
10 まちづくりを支える固定資産税
12 市政協力員の皆さんを紹介します
14 八代市総合防災訓練
15 平成26年度 八代市職員募集 <前期日程>
16 市民カレンダー
18 くらしの情報
24 広告
28 まちのわだい
小学校新入学児童へプレゼント
旧河俣小グラウンドに発電所
台湾駐日代表ら来代
松橋支援学校 高等部氷川分教室スタート
100歳おめでとうございます
泉第一・第二・第三小学校で閉校式
泉小中学校入学式 開校式典
二見花公園がオープン
喫煙設備を贈呈
ふるさとエコカルタを寄付
八障連ふれあいプラザ 開設
31 伝言板
32 ふる郷 愛鏡祭、平家いずみお茶まつり